

# Join!

長門湯本観光まちづくり  
みんなの力で湯ノバージョン

成長戦略推進課 Tel 23-1234  
長門湯本みらいプロジェクトHP  
<http://yumoto-mirai.jp/>

## 懐かしの湯本フォト



写真提供：湯本まちかど資料館館長 吉富尊一

## 地域観光プランニングカレッジ開催

### 長門湯本温泉×深川萩焼

長門湯本温泉観光まちづくり計画では「全国温泉地ランキングトップ10」入りを目指すための戦略として、全国の温泉地を分析したうえで「自然を生かした魅力的な温泉街を持つ温泉地」を目指すこととしており、公民が一体となった取組を推進しています。

この取組が新しい観光まちづくりのあり方を学ぶ学生や専門家の研修、学術分野から地域への社会貢献の舞台になると注目され、9月24日(日)から3日間「地域観光プランニングカレッジ」が長門湯本温泉で開催されました。

日本建築学会「地域観光プランニング小委員会」が主催したこのカレッジは、観光による収入や地域外の人との交流機会の創出を、まちの環境改善や生活の質の向上につなげるといった観光とまちづくりのWin-Winの関係を構築するアイデアを企画する合宿型ワークショップです。

全国から集まった約30人の学生や教員らが長門湯本温泉と深川萩焼の連携をテーマに取り組みました。温泉街や三ノ瀬地区を視察し、懇親会や発表会では地域住民や観光事業者、作陶家などと意見交換を行いました。

提案された内容は、温泉街だけでなく萩焼深川窯のある三ノ瀬の美しい集落環境や、両地区と歴史的に深く結びついた大寧寺を活かす内容が含まれていました。学生にはこれらの地域の歴史や環境、作陶家の芸術性は、観光客にとって大きな魅力となると映ったようです。

観光体験を通して暮らしの中に萩焼を取り入れる提案「萩焼のある暮らし」や、環境を活かして旅館の外に観光客を誘うツアー・朝ライブ(過ごし方)の提案、大寧寺を舞台に作陶家と旅館関係者、住民が学び合い、観光客のニーズ把握やおもてなしの方法を考える提案「サロンde大寧寺」などが発表され、参加した地元住民らと意見交換が行われました。



▲発表会には地元住民も聴講に訪れた

まちづくりの  
キーパーソン



《略歴》  
1970年生まれ。横浜市在住。首都大学東京教授。趣味はガーデニング、テニス。特技は妄想すること

## 観光をツールに地域の課題を解決。

かわはら  
すすむ  
川原 晋 さん

(長門湯本観光まちづくり  
デザイン会議アドバイザー)

「観光まちづくり」を専門に各地で実践と研究をされている川原晋教授。長門湯本温泉観光まちづくりでは、デザイン会議のアドバイザーとして研究者の立場から助言をされています。

川原さんの活動の原点は、バブル経済の頃、地域と関連性のない建物がどんどん建設される状況が嫌になり、住民参加で乱開発からまちを守る活動をしたことがきっかけとのこと。「観光地の開発には負のインパクトもあり、コントロールしないといけない。まちの環境改善や住民の生活向上のために観光とい

うツールを使うことが大切」と強調します。

9月に開催した「地域観光プランニングカレッジ」では県内外の大学生や教員と一緒に湯本で合宿し、萩焼深川窯と温泉街の連携について調査・提案。学生からの提案をきっかけに住民とまちづくりについて考える場が増えればと期待を込めます。

「地域の人の声の中にまちづくりのヒントがあり、地域にとって意味のある観光を常に考え合える状況をつくりたい」と地域に軸足を置いた観光まちづくりに取り組まれます。